

# 麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 臨床検査技術学科

職階 准教授

氏名 小野澤 裕也

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

## 1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

1年次に生理学の基礎を学び、生体に関する基礎生理学の知識を定着させる。

2年次に基礎的な生理学に関する知識と、実際の臨床検査の基本的な結びつきを理解し、実習を通して、比較的取得しやすい基本的な検査手技を習得する。

3年次に1年次に学んだ基礎生理学の教師として何に責任を負っているかを明確にし、自分が担当している授業科目に関して数行で説明する。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
生理学Ⅰ	臨床検査技術学科	必修	1	95
生理学Ⅱ	臨床検査技術学科	必修	1	95
臨床生理学Ⅰ	臨床検査技術学科	必修	3	110
臨床生理学Ⅱ	臨床検査技術学科	必修	3	110
基礎教養科学演習	臨床検査技術学科	必修	1	95
基礎科学実験	臨床検査技術学科	必修	1	95
生理学実習	臨床検査技術学科	必修	2	95
臨床生理学実習	臨床検査技術学科	必修	3	105
総合臨床検査学演習	臨床検査技術学科	選択	4	90
総合臨床検査学Ⅱ	臨床検査技術学科	必修	3	90
総合臨床検査学Ⅲ	臨床検査技術学科	選択	4	90
科学者・研究者論	環境保健科学専攻（博士前期課程）		1	15

## 2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

生理学を通じて得た知識から、さまざまな疾患への理解を深め、そのためにはどのような検査が必要なのか、正確な診断のためにはどのような技術が必要なのかを体感して知ること、臨床実習や国家試験に対する勉強への意識を高める。

実際に臨床の現場で活躍する臨床検査技師になるためには、国家試験取得および就職後にも学び続ける必要があることを知るとともに、医療者として社会に貢献できる職種を希望し、進学したことに自信を持たせ、継続的に努力することの重要性を理解させたい。

### 3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

1年次の基礎生理学を学ぶときから、その背景にある代表的な疾患についての原因や病態を解説し、今学んでいる内容がどのように臨床検査に活かされていくか体感しながら講義する。

2年次の生理学実習では、基礎的な技術であっても習得することが難しいことを知り、3年次以降の臨床生理学へのモチベーションを高める。

3年次の臨床生理学および実習では、実際の検査方法に加え、正常所見、異常所見を理解し、その異常所見を見出すためにどのような技術が必要なのか、検査の難しさと興味深さを並行して体験させる。

3年次の臨床生理学2は対面試験となったため、集中的な学習機会を得させることができた。

#### (1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

講義終了時にGoogleformやAzamoodleを用いた知識確認試験を実施している。定期試験前にも繰り返し取り組めるようにすることで、復習にも活用できるようにしている。復習や試験対策のために講義録画を公開している。

#### (2) ICTの教育活用

有

重要な部分を繰り返しGoogleformやAzamoodleを使用した試験形式で復習することにより、より知識が定着できるようにしている。また講義動画を録画し、配信をしている。

### 4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

#### (1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

スライドを簡潔にし、さらに必要な知識はスライドに自筆で書き込みながら講義を行なっている。学生がスライドを見るだけでなく、スライドを完成させていくような意識を持ってもらえるよう取り組んでいる。実習では予習用に見本となる実技動画を配信している。

#### (2) 学生の理解度の把握

B

知識確認試験の結果を分析し、把握している。

**(3) 学生の自学自習を促す工夫**

A

講義後の課題で毎回の講義の要点を自身の言葉でまとめる練習をさせている。

**(4) 学生とのコミュニケーション**

A

講義に質問の機会を与えている。研究室へ来室する学生や、メールで質問する学生もおり、適時回答して対応している。

**(5) 双方向授業への工夫**

A

いつでも質問して良いことを繰り返し伝えている。研究室に来室する学生が増えた。

**(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）**

A

過去の問題や出題傾向を分析した上で、対策講義を実施している。

## 5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

**(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映**

授業ペースを下げ、スライドを簡潔化した。

**(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題**

定期試験の平均点が上昇し、単位取得率が若干向上した。

**(3) (2)を踏まえた次年度の取組**

学生の理解状況に合わせて、適宜講義スピードを調節する。

## 6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組  
講義毎に行う知識確認試験が効果的であったので、回数を増やし継続する。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組  
に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック  
講義後の試験や課題があることで、講義への集中力が高まっている。

## 7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

全て参加している。

## 8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

学生に合わせた講義を実施し、国家試験合格率を向上させたい。

## 9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

特になし。